

ひろば大代

NO.302

大代公民館

H16.9.23

敬老の日 いついつまでもお元気で



十九日、大代小学校屋体で敬老会が開催され、地域ぐるみで長寿を祝いました。

敬老会に招待を受けられた七十五歳以上の方は百八十九人でした。うち参加者は百二人、来賓にボランティア、余興出演者を含めるとかなりの数とな

り、長寿を誇る大代の一大イベントとなりました。

高村貢社協会長の挨拶に始まり、喜寿（二十人）米寿（五人）の方へ祝品が贈られました。

開会行事に引き続いて余興に入りま

した。中学校田植囃子愛護少年団による田植囃子「田神おろし」「植調子」の堂々たる演奏、幼稚園、小学校一、二年生による可愛い歌と踊り、昔話があり、参加者の皆さんは、孫の世代との触れ合いに目を細め、大きな拍手を送って下さいました。

乾杯をはさんで、寿会、ふきのとう、金子都子さん、扇心の方の踊りや銭太鼓、最後には仮面舞踏会（全員出演）等々最高に盛り上がりました。

来賓のJA高山支所長さん、大代駐在さんの歌の初披露と自己紹介があり、改めて輪（和）が広がりました。参加者の演歌、ハーモニカ演奏（八十六歳）も心に染みしました。

三時間にわたる敬老会も、皆さんのお力添えにより、例年以上に心に残る楽しい催しとなった事を嬉しく思います。

喜寿に想う

植松 後藤サツキ



敬老会の案内を頂きました。「喜寿」との事、エッもう七十七歳？と今更の様に驚き、もう八十歳は目の前、後が無い！俄かに焦燥感を覚えました。

意識の底にはありましたが現実味がありませんでした。自然界の冬も寒くてつらいが、人間界の冬はもつとつらくきびしい。此れから迫り来る老をどう受け止めるか。眠られない時は来し方を思います。

親の庇護から離れて以後色々な出来事、沢山な人との出会いがありました。あの時はああすればよかった、こう云えばよかった、素直に謝ればよかった、今考えれば本当に恥ずかしく後悔の念しきりです。

終戦は学徒動員で呉の海軍工廠で迎えました。必勝を信じて一生懸命働きました。その時起居を共にした友達が、五十年後に云いました。

「あんたはいまだに正直の上にバカがつくのか」と。

現在私は一〇四歳の母と二人暮らしですが老々介護も最たるもので、家で看られる間は見てやりたい、未だ物の味も分かります。箸や茶碗も自分で持ちます。「おいしい」と目を輝かせてもらいたい。私の願いです。

近くに住む姉と喧嘩をしながら、近所のお方や、友達に手を借りて悪戦苦闘の毎日です。

自分の老後をどう生きるかは未だ考えておりません。



喜寿を迎えて

上市 山根美佐子

敬老の日を前にして、公民館より原稿依頼があり一瞬どうして？と思いましたが。喜寿を迎えて残り少ない人生自身の老後への心構えは何も出来て居りません。今は只、八十六歳の姉と二人三脚の泣き笑いの毎日です。

姉に非を責める

と「あんたも齢

をとれば判

る」と云って

おりましたが、

昨今失敗の

数々、ままたら

ぬ体の動き、頭

の回転の鈍さを実感

して居ります。ついついきつい口調に

なり、姉の気持ちを傷付け、夜になる

とああ今日も又…と反省の連続です。

週一回デーサービスに送り出して、

施設の方々の年寄りへの対応、やさしい心遣いには頭の下がる思いです。

我が町に長寿一〇四才の後藤のおば



さんが居られます。名簿が作成されていたら大田市長寿番付横綱の位置に達せられるのではと思っています。

先日夕食時にお伺いしますと、串かつ片手にチビリチビリ、とても満足そうなお顔。安らかな百歳人生です。その蔭には並々ならぬ、介護の御苦労がある事でしょう。

福祉予算が削られ、或いは今年最後になるかも知れない敬老会！喜んで参加致したいと思えます。

色々なご配慮有難うございます。

壽無涯

四日市 荒本貴和子

今年も敬老の日を迎えました。

先日、主人のかつての同僚の書家の先生が、私共の七十七歳の祝いとして、掛軸一幅を持って来て下さいました。

「壽無涯」解説には「長寿なときわまりない」とありました。

おかげさまで昨年は主人が、今年は私が喜寿を迎える事が出来ました。元



気で七十七歳を迎えさせて頂く事は、よくよくのことと有難く、感謝の念で一杯です。

私の父は行年七十二歳、母は七十六歳、兄も七十六歳で往生しました。

喜寿のお祝いも叶わず残念でした。昭和二十五年当寺へ嫁して、しばらくして大病をし、八年目に長女を授かり、また翌年には次女にも恵まれました。それ以来たいした病気もせず、病院の薬ものむことなく今日に至っています。これからは身体に気をつけて、一日一日を感謝しながら送らせていただきたいと思えます。

喜寿を迎えて

弓久 高村利乗



七十七歳を迎え長生きできたなと思います。しみじみ過去が思い出されまじす。人生色々と言葉があるように、私事ですが大江高山の麓に生まれ育ち、八代小学校を卒業後、旧海軍に志願、南方を駆けめぐり幸い無事に帰ってきました。まるで夢のように思えます。

八代村と大家村との合併、大代村と川本町との合併、又大田市と大変な事でした。私も森林組合に勤めながら農業をしてきました。

最近開通した念願の県道大代バイパスを通る事が多くなりましたが、小学校越しに見える大江高山を眺めるのが一番楽しみです。

残りの人生をこの高山の麓で暮らしたいと思えます。



年を重ねることは幸せ

柿田 藤井房子

喜寿を迎え、多くの方々にお祝いの言葉をいただき幸福感に浸っております。

省みますに、一歳で実母と死別しましたが、母の命をもらっているのか母の実家を継承する身となりました。実父がとても喜んでくれていました。

そして十人の家族に囲まれ、社会的には多くの方々に支えられ生かされてもらい、とても幸せです。

減反政策で荒廃した自然崩壊がとても嫌でした。賛同者を得て立ち上げた「一万円札の会」も今年度は白皮加工まで大代工場で可能の目途も立ちました。夢の実現が多くの方々の協力で果せ感謝の念で一杯です。

十一月には新札発行です。できれば会員の手元に沢山沢山届けば満足感も倍増するのですがどれだけ溜まるやら？これ又夢の夢かも…

昨年に比べ、三瓶マラソンで体力測定もでき、工場の目途も立ち、祝つて

ももらい今年は逆転の嬉しい年となりました。

今後は年を重ねる毎に病魔も迫ってくるでしょう。家族は勿論のこと多くの方々に支えられ、努力を惜しまず明るく生かさせてもらいたいと思っております。

敬老会での祝福等々、心から感謝申し上げます。

異例の年に喜寿を迎えて

川上 木下イツコ

今年は、松江に居る長男の所で新年を迎えました。元日はお宮参りと親戚の年始廻り等、もてはやされた正月も束の間、姉の急死、続いて甥の死、胸の中は大きな空間のまま夏を迎えました。

夏の猛暑、どこへ行っても「まあ暑いよねえ」と口先に出る言葉に「まあー」が付き物のようでした。あちこちに大きな傷跡を残して去っていった台風の数が多い年でした。

アテネのオリンピック、男子の体操、女子のシンクロ、何度でも見たいよう

な素晴らしい演技を見せてくれました。

原稿を受け取ったまま、書くことの苦手な私、困ったなあと思いつながら一日一日が過ぎてしまいい敬老の日を迎えることになりました。

喜寿という祝年、七十七歳今日までよう生かされて来たこと、これも人々の支えあってこそと、あらためて感謝致しております。喜ばしい限りです。

敬老の日にあたって、色々お世話して下さいました皆様方に深く感謝致します。誠にありがとうございます。

これからの余生をなるべく人に迷惑をかけないように健康に注意して一日を大事にしながら頑張っていきたいと思えます。よろしく願います。
◎習うこといっぱいあってすぐ忘れた。

蕎麦道場を開店して

はぐるま会会長 高村 貢



蕎麦道場を開店して早や二カ月。

皆様のお蔭でそば粉五キログラム、約四十五人分が午後一時頃までに完売している有り様です。ご協力に感謝し

ます。

皆様の評判もまずまずで、会員も安心したと同時に、これからも練習に練習を重ねて、高山そばの世界一を目指していきたいと思えます。
これからも宜しくお願い致します。

田植ばやし

伝承とこれからの大代

三年前から農林省の独立行政法人農業工業研究所の研究員の方々が、大代の伝承文化・農業経営・気象などについて調査研究をされて、その一部について報告会でお話して頂いております。
その後、八反田川の魚や昆虫などの生息実態などの調査などもされ、少しずつ昔の環境に戻りつつある事を確認されております。これらの実態を他の地域の調査と整合させながらまとめて頂きました原稿を、今月から数回に分

けて掲載致します。

大代の田植ばやしの伝承や地域資源を活かして、地域の活性化を考えることが期待されます。

サンバイさんと

サクラとハエノコの話

(独) 農業工学研究所

主任研究官 山下 裕作

1. サンバイさんとは…

サンバイさんとは中国地域山間部に広く伝えられる田の神のことです。

この神様は、四季を通じ移動する神様として知られています。その移動を去来と言います。このサンバイさんと、その去来については、実は様々な先生方が報告されており、民俗学を学ぶものにとつてはなじみ深い話であります。しかし、このサンバイさんを伝承していたはずの地域において、現在の住民の皆様にお伺いすると、ほとんどご存知ないようです。

もちろん憶えている方も少なからずおられますが、すすんで息子娘や、子供達に伝承されていないようです。

少々残念なことであります。本記事をお読みになつていらっしゃる方にも、このサンバイさんについてご存知ない方もいらっしゃるでしょう。

とりあえず、私が中国地域のあちこちで聞いた話を取りまとめ、サンバイさんのご紹介をいたしましょう。

II サンバイさんのお話 II

「村の住民が亡くなると、四十九日を経てあの世に行きます。その時、餅を一升だけ搗いて仏に供えます。あの世へ持たすためでしょう。その仏さんも三十三回忌を終えると、山にお籠もりになつて神さんになります。」

この神さんは山の神とか荒神とか大元神と呼ばれます。特に島根県各地では、その神様に奉ずる「大元神楽」が盛大に行われていました。

この神さまは焼き畑をしながら村を拓き、山を崩して砂鉄をとり、農具などを作る鉄穴(かなな)流しをしては少しずつ田んぼを拓いてた先祖たちです。だから村里に住む子孫の幸福と作物の豊作を気にかけてるのでしよう、

よく村里に降りて来ます。

正月には「年神」さんになつて里に下り、一旦はトンドの煙に乗つて山へ降り、田植え前には田の神のサンバイさんとなつて、ハエンゴ(魚)の背に乗り、川をつたつて山から降りてきます。サンバイさんは井堰から水路をたどり、田の水口に降り立ち、稲を守るため田に籠もるのです。

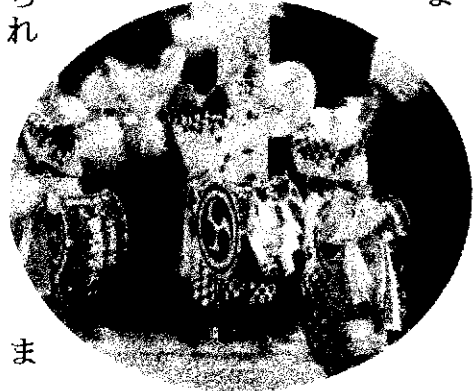
そのサンバイさんを迎えるために、田植えの日には水口に、サンバイさんの籠もる森をつくり、そして三把の苗をお供えしました。

その後、レンゲ(旧暦六月十五日)かハンゲ(七月二日頃)のころ畑に移り「畑の作神」さんとして畑作物をお守りになります。このサンバイさんが移られる日、田んぼに入つてはいけません。田んぼに入ると、田の草の先で目を突いて見えなくなつてしまいます。また、七夕はサンバイさんの日とする所もあります。この日、お宮で田植え囃子が行われるのです。

大代につたわる十七夜の田植え囃子も、この七夕のサンバイさんと関係あるのかもしれない。七夕や十七夜、

ともに旧暦に直すとお盆に係関係して
います。祖先の魂でもあるサンバイさん
が、この日里のお宮に帰るのは当然の
ことかもしれま
せん。

そのサンバ
イさんです
が、イノコ
(旧暦十月
の亥の日)の
日に山の畑を
経て、山へ帰られ
ます。



す。この日はまた畑に入っ
てはいけません。この日畑ではサンバイさんが大
根をミリミリと太らせま
す。その音を
聞いてしま
うと死んでしま
うと伝えら
れています。サンバイさんは山へ帰ら
れると、山の神、荒神、大元神さまに
戻られます。

そうした神さまの一部分がふつと切
り離されることがございます。ふつと
切り離されて、その村里に新しく子供
として生まれ変わってくるのです。あ
の世界は暮らしやすかったの
でしよう、産まれたばかりの子供はよくあ
ち
らへ帰ろうとします。

一才になると、歩いて帰ろうとし
ます。生きた者としてこちらに留まり、
代々村里を守り伝えなければなら
ないことを教えるため、一才になると
仏に持たせると同じ一升餅を子供に背負
わせ、わざと転ばせま
す。そうすること
で、あちらの世界には帰れないこと
を教えるのです。

ですが、やっぱり子供たちは神さま
に一番近い心根をもっているのですか
ら、村や農業に関する色々なまじない
事をしてもらったもの
です。

トノヘイでは年神さまの使いとして
家々に良い種(穀霊)を配り、虫送り
では稲に付く害虫(悪霊)を追い、イ
ノコ祭では藁鉄砲で地面を叩き、神さ
まを山に送った後の大地を清めたりし
た
た
もの
です
。・・。
」

(次号に続く)

10月行事予定

▼10日(日) 大江高山草刈登山

▼17日(日) 福祉弁当

▼19日(日) さくらんぼ教室

▼23日(木) 連合自治会

||お知らせ||

○大代地区社協より

ご寄付を頂きました。厚くお礼申し
上げます。

金子都子 様

竹間 清 様

熊谷 稔 様

花田辰行 様

○大代公民館より

昨年(財)日本環境協会藤本倫子環
境保全活動助成事業により行なった、
大代小学校のギフチョウの観察などの
様子がインターネットで見ることがで
きます。

藤本基金ホームページアドレスは

http://www.jeas.or.jp/activ/prom_h15/prom_h15.htm#04です。

パソコンでご覧下さい。

○大代高山会より

大田市花いっぱいコンクールにて
優秀賞を受賞致しました。お花がいっ
ぱいの大代町に頑張りました。